

1-1 モンゴル帝国の形成へ

Q1

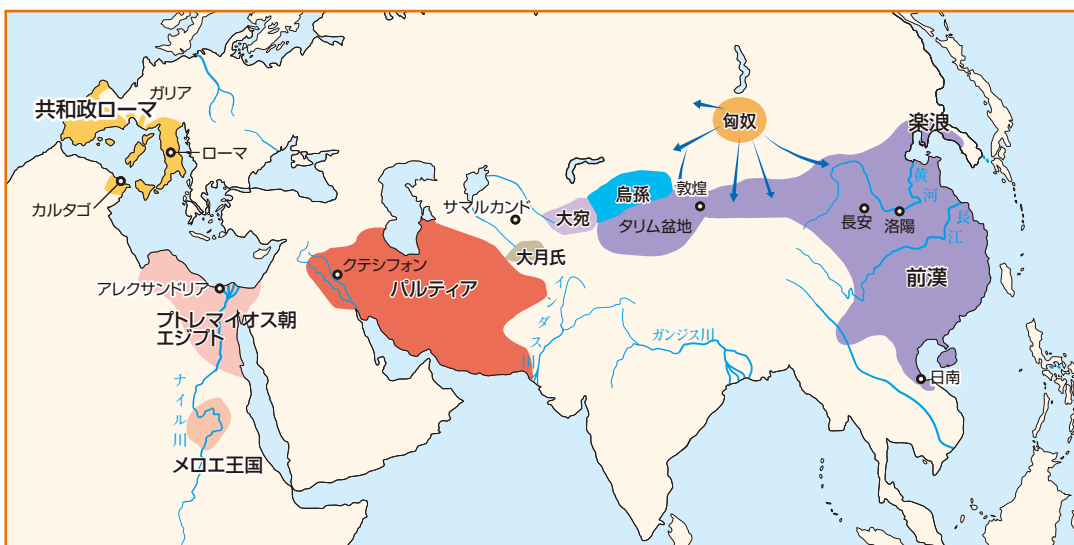
2012年度 第2問 ※改題

人類の歴史のなかで、遊牧は農耕とならぶ重要な生活様式のひとつであった。遊牧民、とりわけ軍事力や機動力にすぐれた遊牧民の集団は、広域にわたる遊牧国家の建設や周辺の農耕・定住地域への侵入、大規模な移動などによって大きな役割をはたした。これをふまえて、以下の設問に答えなさい。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記しなさい。

Q1-1 漢の武帝・匈奴・西域

匈奴以来、モンゴル高原にはしばしば強力な遊牧国家が誕生し、中国の脅威となった。あるものは長城を境にして中国と対峙し、あるものは長城を越えて支配を及ぼすなど、遊牧民族の動静は、中国の歴史に大きな影響を与えつづけた。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

- (a) 漢の武帝の対匈奴政策と西域政策とのかかわりについて、2行以内で説明しなさい。
- (b) 15世紀なかごろにはモンゴルのある部族が明の皇帝を捕虜とする事件があった。この部族の名①と事件の名②を、冒頭に①・②を付して記しなさい。



前2世紀の世界

(a)の解答への手引き

設問吟味

漢の武帝の対匈奴政策 と 西域政策 とのかかわり
 A B C

各項分析

- A……張騫を大月氏に派遣——①_____
衛青・霍去病に遠征させる
- B……敦煌郡など4郡（河西4郡）設置
西域を支配——②_____
- C……③_____

論の展開

《衛青・霍去病に遠征させる》

匈奴挾撃をはかって張騫を大月氏に派遣 A
 → その報告で西域事情が判明 C

敦煌郡など4郡設置 B
 タリム盆地のオアシスへも支配を及ぼす

《李広利を大宛へ派遣 → 汗血馬を入手》

解答例

- (1)
- (a)匈奴挾撃のため大月氏との同盟を図って張騫を派遣し、西域事情を知ると敦煌ら4郡を設置、タリム盆地のオアシスをも支配した。
- (b)①オイラト ②土木の変

Q1-2 フン・エフタルおよびササン朝

中央ユーラシアの草原地帯に出現した遊牧民のなかでも、4世紀になるとフン族が西進し、それとともにユーラシア西部に大変動が起きている。やがて、5世紀後半には遊牧民エフタルが台頭し、周辺の大国をおびやかした。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

- (a) 5世紀におけるフン族の最盛期とその後について、2行以内で説明しなさい。
 (b) エフタルに苦しめられた西アジアの大国を中心とした6世紀半ばの情勢について、2行以内で説明しなさい。

(a)の解答への手引き

設問吟味

5世紀におけるフン族の最盛期、その後

A

B

各項分析

A……アッティラの大帝国——①_____

B……カタラウヌムの戦いに敗北——②_____
 → 帝国崩壊

論の展開

アッティラがパンノニア中心に大帝国 A

《西ローマ各地に侵攻》

カタラウヌムの戦いで、ローマ・ゲルマン軍に敗北

→ 《イタリア侵入 → 教皇(レオ1世)の説得で撤退》 B

→ アッティラ死後、帝国崩壊

解答例

(2)

(a)アッティラがパンノニアを中心に大帝国を築いたが、カタラウヌムの戦いでローマ・ゲルマン軍に破れ、彼の死後帝国は崩壊した。

(b)の解答への手引き

設問吟味

エフタルに苦しめられた西アジアの大国 を中心とした6世紀半ばの情勢

A

B

各項分析

A……ササン朝

B……ホスロー1世 = 最盛期

ビザンツ帝国と抗争——①_____

エフタルを滅ぼす——②_____

論の展開

ササン朝 A

ホスロー1世

最盛期

ビザンツ帝国ユスティニアヌスと抗争

——イラク(メソポタミア)をめぐる

突厥と結びエフタル滅ぼす B

解答例

(b)ササン朝がホスロー1世のもとで最盛期を迎え、ビザンツ帝国のユスティニアヌスと争い、突厥と結んでエフタルを滅ぼした。